

ふくせん 神奈川県ブロック研修「おむつ研修会」開催、理論と実践で学習効果も高く！

去る10月18日、ふくせん・神奈川県ブロック（北川貴己ブロック長）は、ウィリング横浜において、平成25年度「おむつ研修会」を開催した。開会に先立ち、北川ブロック長からは「次期制度改正後、福祉用具専門相談員が選ばれる時代が到来する。今後とも研修機会を確保するので、スキルアップに努めてほしい」と挨拶した。

続いて研修に入った。講師は、排泄ケア相談処「諒」代表の田中明子先生。テーマは「知ってるようで知らない、おむつの当て方・選び方」。講義は、理論編と実践編から構成され、座学と演習をくみあわせた内容。

田中先生は、理論編に入る前に、紙おむつを受講者全員につけさせ、座学の途中で装着の状態を各自で確認させた（写真①）。着けていた時間は30分程だったが、ほとんどの受講生の紙おむつは外れそうな状態に。ここで、講師の実演をもとに、受講生同士でつけ合ってみる。田中先生からは、当て方に加え、「サイズがあわないと横漏れがする。『大は小を兼ねる』は、おむつには当てはまらない」と強調。実演済みの受講生はみな納得していた様子。

このほか座学は、排尿・排泄の仕組みと障害、おむつの種類と選び方、使い方という内容で進んだ。後半の演習では身体状況、サイズ、吸収量、通気性などの観点から、各商品の長短を分析。特に通気性では、尿取りパッドにお湯を吸収させ、透明コップで蒸気の上がり具合を比較させるなど、商品長短を体感させる内容だった（写真②③）。

メーカーの商品説明を受けるケースは多いが、排泄ケアを体系的に学習し、これを踏まえた商品学習、という機会は意外に少ない。神奈川県ブロックでは、今年度研修テーマを「明日から活用できる研修会」としているが、このテーマに沿った研修内容だった。

研修会の様子



写真①



写真②



写真③



神奈川県ブロック研修会

待ちに待った「住宅改修研修会」 広い視点で生活の観察を

去る11月1日、ふくせん神奈川県ブロック（北川貴己ブロック長）で研修会をおこなった。演題は「移動用具と住環境の適合技術」。会員から「ぜひやってほしい」と要望も多い、住宅改修に関する研修会。北川ブロック長は、「待ちに待った研修。現場で福祉用具を導入する際、福祉用具と住宅改修を融合した提案ができるよう、学んでもらいたい。」と述べた。

講師は橋本美芽氏（首都大学東京大学院准教授）。福祉用具・住宅改修サービスを提供する際に、福祉用具専門相談員が目を向けるべきところを詳しく説明した。橋本氏は、「住宅改修の前に生活を見ること」を強調する。改修工事が終われば、生活用品が元の位置に戻される。そこに転倒の要因が生まれる。たとえば、段差解消のために設置したミニスロープのうえに、じゅうたんがかぶされれば、すべて転倒するリスクが高まる、といったもの。

また、「住宅改修を検討する際には、床ばかりでなく天井を見るように」とも橋本氏。これは、「夜間を想像することが大事」ということ。日中訪問したときは明るい廊下、しかし夜になると照明が暗くて足元が見えづらくなり、転倒などの要因が生まれる。「福祉用具専門相談員は一步さがって全体を確認し、きめこまかいアドバイスを」と伝えた。

ブロック会計担当の渡邊英和氏は、「現場で住宅改修の依頼を受けることがあるが、それは決められた住宅改修の範囲のなかにとどまりがちなのが現状。しかし、橋本先生のお話にあったとおり、住環境全体を評価することが大切。住環境全体とは、電気や照明、換気、水まわり等住宅設備機器、構造など様々。利用者の生活支援のなかでは広い視点が必要」と感想を述べた。

参加した福祉用具専門相談員からは、「事例や写真を使って、細部にわたる注意点を教えてもらい、とてもわかりやすい研修だった」、「現場にそくしている」という声が聞かれるなど、好評を得られた研修会であった。



今回の内容について参考になりましたか？

